

2025年度 地学団体研究会埼玉支部総会/講演会のご案内

—下記の内容の講演会を行いますので、会員外でも興味ある方はご参加下さい。—

日時：2025年4月29日（火・祝日）

会場：ウエスタ川越 川越駅西口下車徒歩7分 3階 研修室4

10:00~12:00 2024年度活動総括、2025年度活動方針 など

昼食

13:30~15:30 講演 「沈んだ大陸-大規模海面上昇と動物分布の謎-」

柴 正博さん（静岡支部、ふじのくに地球環境史ミュージアム）

「沈んだ大陸」という本のテーマは、海底には沈んだ大陸の痕跡があり、それは地殻の上昇と海面上昇によって、大陸と海洋の分布が変化したものである。陸生動物は過去のその大陸を移動して分布を拡げ、その後の海面上昇により陸橋が沈水したため、生物の系統が分岐してそれぞれの固有種が形成された、というものです。それには大陸移動も海洋分散も関わっていません。

日本列島も含めて東南アジアや地中海などの世界の島々に、なぜゾウがいたのか、オーストラリア大陸と南アメリカ大陸になぜ有袋類がいるのか、なぜ太平洋のガラパゴス諸島とインド洋のセイシェル諸島にゾウガメがいるのか、なぜマダガスカル島にキツネザルがいるのか、なぜペンギンは南極圏の島々に分かれて棲んでいるのかなど……固有陸生動物の謎はつきません。

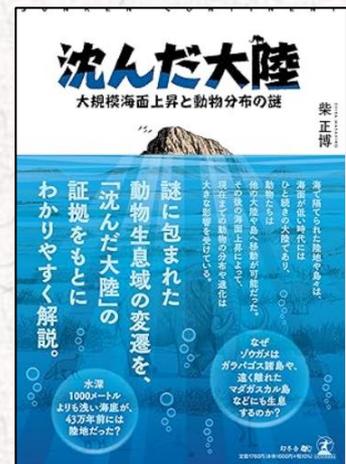
地球の過去の歴史は地層の記録として残されています。この地層がどのように形成されてきたかということが、地球の歴史を解き明かすための根本問題であると、私は考えます。すなわち、私は地層を形成させた地殻の相対的沈降量を海面上昇量としてとらえて、それを白亜紀以降の生物地理学に適用した作業仮説をつくり、最近の分子遺伝学が明らかにした生物の分岐年代をもとに、生物が移動した沈んだ大陸を推定しました。

* 当日会場にて演者の書籍の販売を行います。

*

講師紹介 1952年生まれ。高校の地学教師を勤めた後、1982年より東海大学自然史博物館（現海洋学部博物館）学芸員、1988年理学博士。

現在は、ふじのくに地球環境史ミュージアム客員教授



地学団体研究会埼玉支部